



果樹課
大和屋 尚享



収穫前の 獣害対策は万全に!!

本誌5月号で獣害対策として電気柵の設置についてお知らせしました。

今年はクマの主なエサとなるブナの実が豊作と予測されているものの、今後、果実の成熟に伴い、果樹園へのクマ出没が増えることが懸念されます。

実際に管内の果樹園で今年、電気柵を持っているものの、収穫近くになっても設置していなかったためにクマの被害にあってしまった、という事例が発生しました。

そこで獣害対策（クマ対策）について、電気柵設置のポイントを含め今一度お知らせしますので、確実に実施しましょう！

「出会わない、来させない」

①音を出して作業

クマは基本的に人を避けて行動します。

園地等でバツタリ会わないために、人の存在をアピールすることが重要です。園地ではラジオ等、音を出して作業を行いましょう。

ただし、クマに聞こえていないと意味がありません。雨の日や風の強い日は音量を高めにしましょう。また、24時間ラジオをつけっぱなしは、いづれ慣れてしまいます（音が鳴っているだけで身に危険が無いと見破られる）。



②廃棄作物について

畑の隅に廃棄作物を置いておくのは寄せ餌になり、クマにとっては魅力的な食べ物に見えてしまいます。廃棄作物は電気柵の内側に置かず、埋没か焼却処分してください（電気柵の外側に放置するとクマに味や臭いを覚えさせ、侵入を誘引する原因になる）。

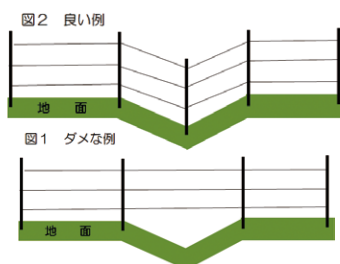
「電気柵設置のポイント」

◎被害を受ける前に設置

電気柵で最も重要なのは、被害を受ける前に設置することです。被害を受けてから慌てて設置する生産者が多いようですが、この場合、電気柵を設置しても防衛しきれない可能性があります。クマは学習能力が高いことが知られています。また、執着心も非常に強い動物です。一度、園地内に侵入し、そこがとても良いエサ場だと認識すれば、電気柵を突破する可能性が高くなります。このため、園地内に一度も侵入させないことが重要です。

◎傾斜地での設置

設置しても侵入された事例で一番多いのが、適切に設置されていないことです（特に傾斜地等多い）。最下段のワイヤーが地面と適切な間隔になっているかが重要になります。クマやイノシシの場合、地面から20cmになっているかを確認しましょう。高すぎるとくぐられて侵入されてしまいます（図1、2）。



※電気柵を設置する園地が平らでなく、一部窪地がある場合、上記図2のように地面とワイヤーの間隔が常に適正になるように設置してください。

◎電気柵下の草対策（漏電防止）

梅雨明け後、気温の上昇に伴い電気柵下の雑草丈が急激に伸びます。放置すると漏電の原因となり、クマ対策の効果を失うことから草刈りや除草剤の処理で漏電防止に努めましょう。

★クマは学習能力が高いですが、これは生きるためです。生きるために、自身に害の無いものを見破ります。クマ対策にぜひ早めに電気柵を設置し、「この線は触ると痛い！これは怖いものだ！」と心理的に認識させて、農作物と自身の安全を確保しましょう。

◇お問い合わせ◇ 果樹課 ☎0182-2316266